

下田市景観ワークショップ 2008 の記録

本年度は静岡県の協力で中心市街地の石造りの景観をテーマに開催しました

<主な経過>

事前うちあわせ 7月13～14日

下田市の中心市街地を歩きながらワークショップの内容を相談していたところ、加田本家前にて偶然、加田博さんと出会い、早速、ワークショップの企画について相談。



下田市中心市街地の魅力的な建物や史跡をまわり企画を考え中

ご快諾いただき、加田本家を伊豆石造建物として学習の対象とすることになりました。

第1回景観ワークショップ開催 10月25～26日



加田さんによる解説をきく



参加者による測量作業の様子



図面をおこす大学院生



調査後の意見交換会

まず、加田ご夫妻による建物の解説をいただいたあと、加田本家のお掃除を参加者全員でお手伝いしました。その後、建物の測量をしました。静岡県建築士会の滝英規建築士の指導により、建築構造の観点からの調査も実施され、また、大学院生は間取り図や主な断面図などの作図を担当しました。大人数の作業はスピーディーに進みました。調査終了後に、参加者全員で、伊豆石造の民家の特徴や活用促進についての意見を出し合いました。



測量時の野帳から

測量結果は、ワークショップに参加した、建築学系大学院生4名により図面化し、その図を用いて、第1回ワークショップの意見や大学院生のアイデアをもとに、建物の魅力をひきだす活用例の提案をつくりました。11月16日には、4名が全員京都に集合し作業を実施。

第2回景観ワークショップ開催 11月29～30日

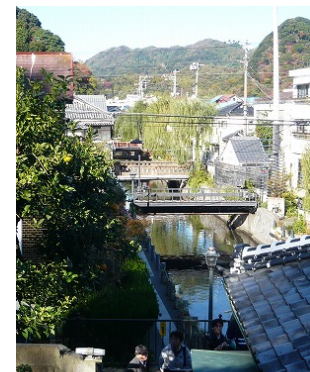
阿波屋いっぷく堂の2階の広間で、第1回の測量や調査でわかった伊豆石造の民家の特徴を話し合いました。加田さんご夫妻も



ワークショップの様子



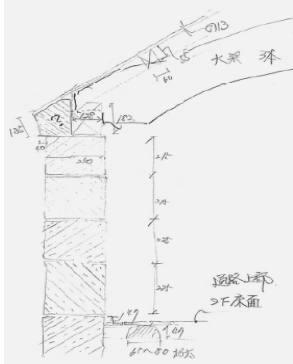
澤村邸の眺め



澤村邸からの眺め

参加され、大学院生も用意してきた活用例の提案を発表しました。大学院生の指導教員の先生方の応援や指導(?)も加わり、さらに、下田のまちづくりに携わる多彩な方々が交流しつつ、下田で伊豆石の建物の活用が実現していくには、どのような取り組みが必要か、景観計画に反映させる必要などが議論されました。建築構造の研究対象として、また、他にない石造民家の町並みとしての重要性などから、今後も研究を持続し、保全・活用に努力することが大切だと、活発に意見交換がなされました。30日は、澤村邸の見学会を開催しました。

加田本家を調べてみると・・・ますます興味深い、伊豆石造の民家の特徴

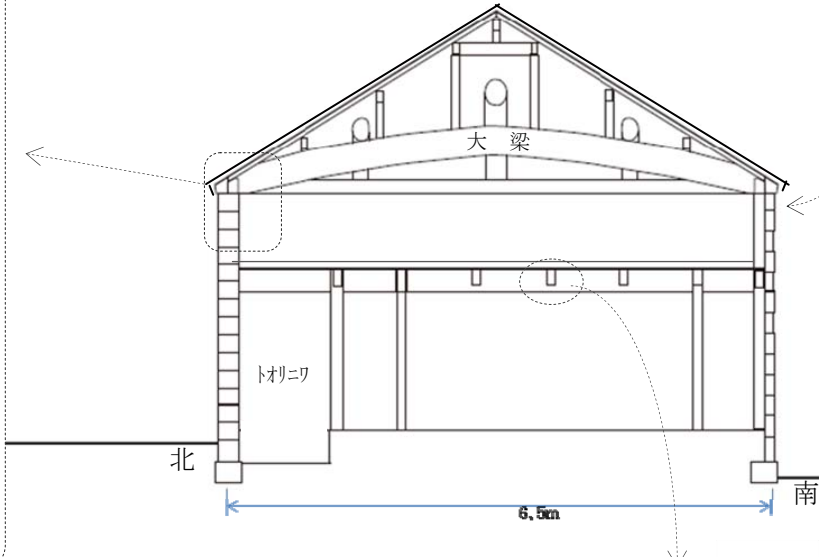


南北断面図

南側の石壁は北壁より小型の石で積まれ、壁面一体ではなく、2階正面壁のところで「切れ目」があり、屋内側の木造土壁の構造と接している。北壁と全く異なる造りにはどんな意味が？



北壁側の石壁に大梁が乗る様子。南壁の内側は概ね土壁なので、石材と木材が接する様子がよくわかるのはこの部分。トオリニワの上部にあたり、煤けている所が今もはっきりわかる。



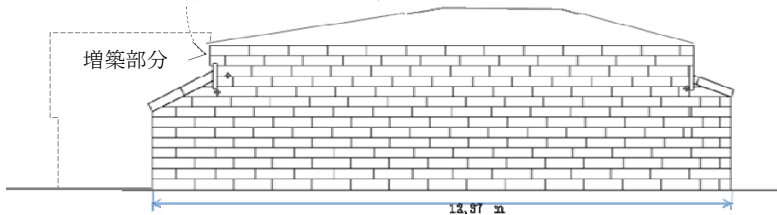
伊豆石造の民家は、石造と木造のあわせ技で構成された民家でした。この1棟でも石の大きさは1種類ではなく、北面と南面で石壁の造られ方が違います。北面は窓がなく切れ目のない一体の壁、南面は窓があり屋内側半分は土壁です。



一階の天井を見上げる。伊豆石造の民家の屋内は、太い梁が印象的な「木造の民家」のような印象。

北立面

2階正面のつし部分（隠れているが屋内からみると窓がある）



東立面（正面側）

増築部分の後ろに隠れている部分を想像する



石壁

窓がある(?)

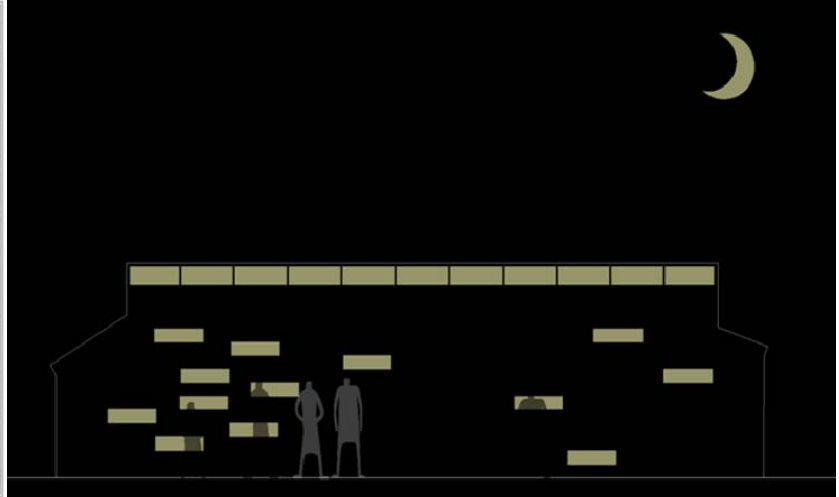
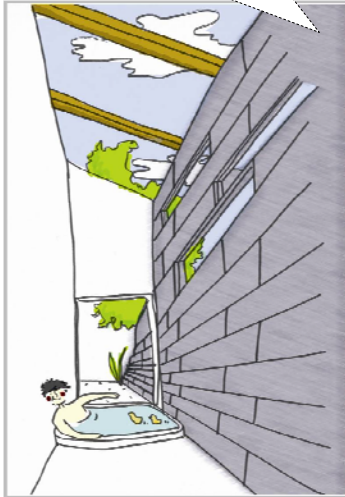
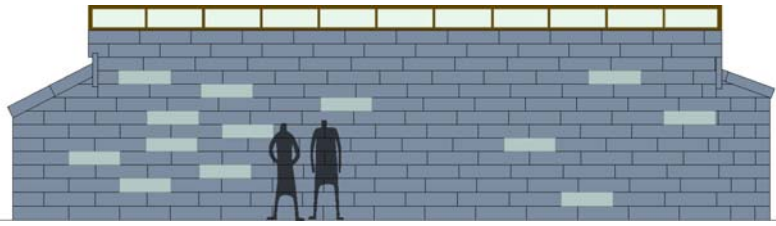
北立面は、現状で最も印象的な石壁の部分（この壁を上手にライトアップするだけでも魅力的では？という意見も）。前面道路や空地の地面高さは、以前は現在より約40cm低かったもようで、地中には石造の基礎部分が隠れています。増築部分を外した場合、屋内の様子から判断して、左図のように二階と一階の両端側に石壁が現れて見えるようです。

※なお、増築部分については、参加者の間で2種類の考え方がありました。外してオリジナルの正面デザインを復活する考え方と、焼き鳥やさんの面影も懐かしいので残したいという考え方です。

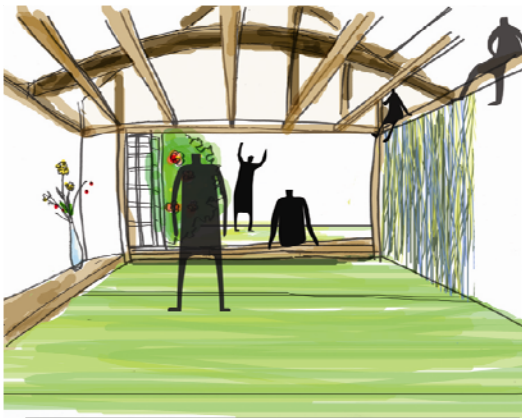
伊豆石造の民家をどのように活かすか？・・・伊豆石造の民家を活用する提案イラスト

○学生作：民家は「住宅」として使おう！石の壁を眺めながらくつろげる浴室（温泉を活用して）。

石壁が継ぎ目なく続くトオリニワを、天窓にし、出来れば、壁の一部分を光を透す、すりガラスブロックにとりかえて、石壁と光を楽しむ浴室のある住宅にする。
夜には外に屋内の光がもれる。



○学生作：「住宅」案のつづき：一階のお座敷の天井板をはずし、格好いい二階の梁がみえる広々リビングルーム

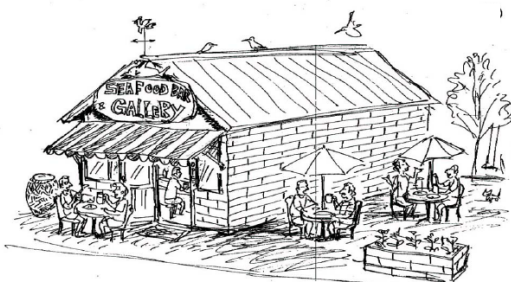


○学生作：ギャラリー案：内部をまっ白に塗り、石と木と漆喰の違いを強調する。色がはえる、藍染・型染の展示などに。

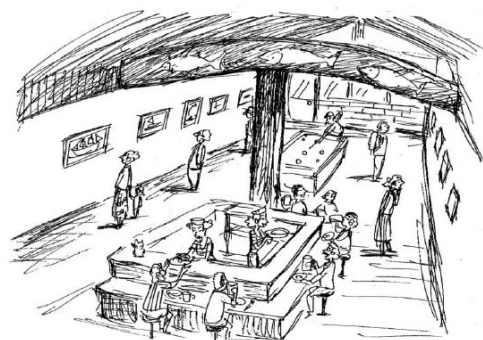


○鈴木まもるさん作：市民が集うシーフード・バー&ギャラリー
駐車場側のスペースも活用・屋内の梁や柱をいかして改装・皆が集ったお店の記憶も継承

加田本家の活用イメージ

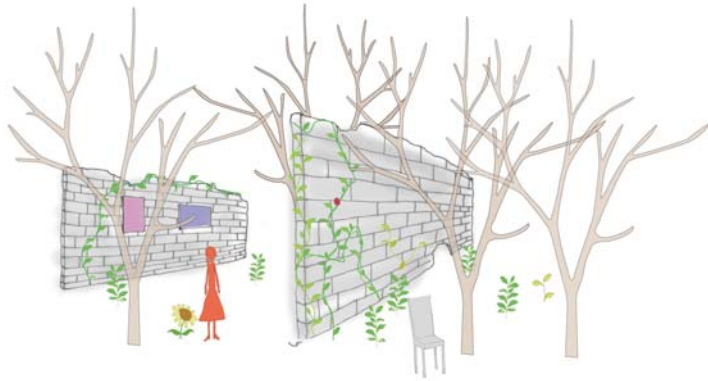


鈴木まもるさん作



鈴木まもるさん作

○学生作：下田市内の伊豆石全部を活用する提案



伊豆石のある場所には必ず「花と緑」と「まちの説明」をセットし、伊豆石を探して歩く行動を促す。常時ではなくとも、イベント時などの期間限定の楽しみとして、できないだろうか？

市内には、伊豆石造の民家が他にもたくさん存在し、さらに蔵や塀などが各所にあります。また、民家や塀の一部が残っている場合もあり、その分布は「まち遺産調査^注」によって詳細に解明されています。

下田市の伊豆石の楽しさは「よく探すと、あちこちに伊豆石が見つかる楽しみ」にあるともいえるので、これを多くの内外の人に楽しんでもらう装置として、市内各所の伊豆石を全部（とはいかずとも多く）を同時に、連動する内容で活用することが、下田市でしかできないことかもしれません。

注：平成18年度全国都市再生モデル調査（国土交通省）「旧南豆製氷所から始まり多様な主体が連携して取り組む下田「まち遺産」保存復活プロジェクトと「まち遺産」を活かした下田活性化策検討調査」

○伊豆石造の民家や遺産を活かす方策について ～ワークショップでの主な議論から～

①伊豆石造の耐震性研究を進める

石造の建物を活かすには、耐震性を適切に評価して、補強が必要ならばその方法を研究する必要がある。伊豆石造り民家の研究は、下田ならではの研究テーマでもある。県建築士会の専門家とともに研究を進めて、安全性を高めながら活用が進められる手法を開発することが必要。

②伊豆石造の遺産を活用するしくみ

・活用実現のコツ

持続可能な取り組みが重要で、無理せず段階的に進める。まず出来ることはボランティアによる清掃か。目途が立つまで複数用途を共存させておくなどが適当では。維持・管理費を少しでも稼げる用途も検討。一時的活用でも。人を案内できるように出来るだけ「開ける」工夫。そして、市民の活動を続けることが最重要。

・活用のための人材とそのしくみ

建物を「管理する人」と「使う人」は異なる役割をもつ。この2者を混同せずにそれぞれ適した人材や組織を育てる。建物所有者の状況を尊重しつつ「所有する人」「管理する人」「使う人」の整理された関係を考える。

・景観計画で「保存と活用」の計画的な位置づけを

建物の状況によってはすぐに活用が実現できないものもある。そうした状況に対応できるためにも、景観計画等の公的計画のなかで、適切に建物を位置づけておき、将来の取り組みにつなげる可能性を確保したい。

③近代（明治時代以降）の下田市の歴史の発信

下田といえば幕末の歴史が極めて有名だが、明治時代以降の遺産が数多くある。伊豆石造り民家も澤村邸も、近代の下田の産業や文化とあわせて学ぶべき。下田の近代の姿をもっと発信することが望ましい。

・・・といった議論が交わされました。県建築士会の滝先生に、耐震性研究に着手して戴けたことは今回のWSの重要成果でした。WS参加者に共通の見解は「遺産活用促進の活動継続」と、段階的だが確実に進む「活用具体化」でした。

ワークショップに参加した人

加田博様ご夫妻

安東平夫 石川裕規 石原よし 井田一久 井出秀成 井上益宏 宇野勝美 海老原成吉 加嶋尚美
加畑国衛 神吉紀世子 倉田好道 坂倉碩夫 佐野智昭 塩見寛 志田保子 清水小次郎 鈴木敬
鈴木諭 鈴木まもる 高橋浩一 滝英規 田路貴浩 田中孝治 田中豊 土屋邦彦 土屋美貞
英みどり 平川博巳 藤原祐一 水口順策 森住吉秀 柳本仁 山岸弘幸 山崎義人 山崎令子
山中新太郎 山本新平 山本忠男 吉田正人 (50音順) / 大学院生：竹島淳二 (日本大学山中研究室)
前坂達男 (日本大学山中研究室) 近藤康子 (京都大学田路研究室) 南井厚美 (京都大学高田・神吉研究室)

本事業は、静岡県から京都大学（担当者：神吉紀世子）への委託事業「平成20年度戦略課題研究「伊豆」」として実施したものです。

お問合せ 〒415-8501 下田市東本郷1丁目5番18号 下田市役所 建設課 都市住宅係
電話 0558-22-2219 FAX 27-1007 E-mail : kensetsu@city.shimoda.shizuoka.jp